

## 第3次伊勢志摩定住自立圏共生ビジョン進捗状況シート

◆生活機能の強化に係る政策分野		頁
医療・福祉	医療体制の確保	1 2 3 4 5 6 7
	子育て環境の充実	休日・夜間応急診療所の維持運営 病院群輪番制の維持 医療受診適正化の啓発 在宅医療・介護連携の推進 病児・病後児の保育施設の運営 ファミリーサポートセンター提供会員の相互利用 児童発達支援センターの設置、運営
産業振興	商工業の振興	8 9 10 11 12 13 14 15 16
	農林漁業の振興	鳥獣被害防止対策
	観光の振興	伊勢志摩地域への旅客誘致 伊勢熊野地域への旅客誘致 伊勢志摩国立公園の自然保護、P R、地域振興
その他	自転車の活用推進	17 自転車を活用したまちづくり
◆結びつきやネットワークの強化に係る政策分野		
公共交通	交通ネットワークの充実	18 19 20 21 22 23 24 25 26 27
	道路網の整備促進	県道鳥羽松阪線の建設促進 県道伊勢南島線の建設促進 宮川架橋の建設促進 伊勢志摩連絡道路の建設促進
	観光交通の渋滞緩和	伊勢地域周辺における交通渋滞の緩和
	地域の生産者、消費者等の連携による地産地消	地産地消の推進及び地場産品のP R
	地域内外の住民との交流	地域情報の共有化及び発信 出会い・結婚への支援
	その他	図書館サービスの充実 宮川流域の保全・活用 消費生活相談体制の強化 インクルーシブスポーツ環境の充実
		図書館サービスの更なる充実に向けた仕組みの構築 宮川流域の環境保全・情報発信 消費生活センターの広域化 インクルーシブスポーツの普及啓発
		28 29 30 31
◆圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野		
人材育成	圏域市町職員・教職員の人材育成	32 33 34 職員研修の合同開催 教職員研修講座の実施 青少年健全育成の合同研修会の開催
	圏域内人材の育成	

【区分】生活機能の強化

【政策分野】医療・福祉

【施策名】医療体制の確保

取組事項		休日・夜間応急診療所の維持運営								
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町	
協定の内容	取組内容	救急医療体制を確保するため、休日夜間の一次救急医療体制（休日・夜間応急診療所）を維持運営する。								
	中心市の役割	伊勢市休日・夜間応急診療所を維持運営する。								
	連携市町の役割	伊勢市休日・夜間応急診療所（鳥羽市、志摩市及び南伊勢町は歯科診療に限る。）の運営に必要な経費を負担する。								
現状と課題		圏域の休日・夜間における一次救急医療は、伊勢市、鳥羽市及び志摩市の休日・夜間応急診療所にて行っている。内科、小児科とともに歯科を開設しているのは伊勢市休日・夜間応急診療所だけである。								
事業の概要		伊勢地区医師会、伊勢地区歯科医師会及び伊勢薬剤師会に委託し、休日・夜間の一次救急医療体制（伊勢市休日・夜間応急診療所）を維持運営する。								
期待される効果		休日・夜間の一次救急医療体制を確保することで、住民の休日・夜間ににおける診療の不安を軽減するとともに健康管理に繋がる。								
事業費（千円）		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度				
		134,919	137,030	137,030	137,030	137,030				
実績費（千円）		127,480								
実施スケジュール	具体的な内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度				
	伊勢市休日・夜間応急診療所の運営								→	
取組の実績	成果指標（単位）		R5	R6	R7	R8	R9	R10	進捗状況	
	開所日数（日）	目標値		365	365	365	366	365	A:目標値達成の見込み	
	【算出方法】伊勢市休日・夜間応急診療所の年間開所日数	時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度		
	実績値	366	365	183						
	利用者数（人）	目標値		9,500	9,500	9,500	9,500	9,500	B:目標値未達成の見込みだが、一定の進捗あり	
	【算出方法】伊勢市休日・夜間応急診療所の年間利用者数	時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度		
	実績値	8,875	8,602	2,813						
	時点	R5年度	R6年度	R7年9月末						
	現況及び今後の方向性	上期は前年同期と比べコロナ等の感染症患者数が減少し、利用者も600人ほど減少したものの、圏域住民が安心して休日・夜間にも一次救急医療を受けられるよう、関係機関等と調整し、安定した診療体制を確保した。例年、年末年始にかけてインフルエンザ等により患者数が増加するため、勤務する医師1名での対応が難しい場合の応援体制の構築など、診療体制の調整を行った。 また、対応可能な医師数の少ない小児科医師の確保に、引き続き努めるとともに、関係機関と調整を図り、安定した診療体制を維持する。								
	備考									

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】生活機能の強化

【政策分野】医療・福祉

【施策名】医療体制の確保

取組事項		病院群輪番制の維持									
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町		
協定の内容	取組内容	救急医療体制を確保するため、休日夜間の二次救急医療体制（病院群輪番制）を維持する。									
	中心市の役割	病院群輪番制の運営に必要な経費を負担する。									
	連携市町の役割	病院群輪番制の運営に必要な経費を負担する。									
現状と課題		地域の休日・夜間における二次救急医療は、伊勢赤十字病院と市立伊勢総合病院の2総合病院で行っている。									
事業の概要		地域内の総合病院の輪番制による二次救急医療体制の維持に必要な支援を行う。									
期待される効果		二次救急医療体制を維持確保し、住民が24時間いつでも診療が受けられる体制の確保に繋がる。									
事業費（千円）		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度					
		34,597	34,668	34,668	34,668	34,668					
実績費（千円）		34,597									
実施スケジュール	具体的な内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度					
	病院群輪番制病院への支援								→		
成果指標（単位）		R5	R6	R7	R8	R9	R10	進捗状況			
取組の実績	開所日数（日） 【算出方法】輪番制により開所した日数	目標値	365	365	365	366	365	A:目標値達成の見込み			
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度				
		実績値	366	365	183						
		時点	R5年度	R6年度	R7年9月末						
取組の実績	受入人数（人） 【算出方法】輪番制による年間受入人数（各病院の合計）	目標値	18,000	18,000	18,000	18,000	18,000	A:目標値達成の見込み			
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度				
		実績値	20,380	20,476	9,948						
		時点	R5年度	R6年度	R7年9月末						
現況及び今後の方向性		地域内2か所の総合病院が輪番制により休日及び夜間における重病救急患者の受入れに対応する二次救急医療体制を確保するため、引き続き運営費の一部を助成し支援する。									
備考											

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】生活機能の強化

【政策分野】医療・福祉

【施策名】医療体制の確保

取組事項		医療受診適正化の啓発										
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町			
協定の内容	取組内容	救急医療体制を確保するため、適正な医療受診に係る啓発を行う。										
	中心市の役割	連携市町と連携し、住民等への啓発等を行う。										
	連携市町の役割	中心市と連携し、住民等への啓発等を行う。										
現状と課題		圏域においては、地域の医療機関が連携し、医療機能に応じた医療機関の役割分担が進められている。しかし、軽症患者が二次救急を不適切に受診する例などにより、本来の医療機能を十分発揮できない場合が生じている。										
事業の概要		住民を対象として、救急時等における病状に応じた医療機関の適切な受診、「かかりつけ医」を持つこと等の啓発を、地域の実状を考慮して広報誌、CATV、救急・災害を考える集いなどで行う。										
期待される効果		「かかりつけ医」を持つことにより、平時の健康管理とともに、救急時においても適切な対応ができる体制整備が進められる。かかりつけ医と最寄の医療機関及び救急病院の役割分担についての理解も住民に広がり、適切な受診が促される。										
事業費 (千円)		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度						
		1,800	1,800	1,800	1,800	1,800						
実績費 (千円)		1,800										
実施スケジュール	具体的な内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度						
	広報紙、CATV、イベント等による住民への啓発								→			
成果指標 (単位)		R5	R6	R7	R8	R9	R10	進捗状況				
取組の実績	啓発活動回数 (回) 【算出方法】啓発に向けてのイベント等の開催回数	目標値	2	2	2	2	2	A:目標値達成の見込み				
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度					
		実績値	2	2	1							
		時点	R5年度	R6年度	R7年9月末							
取組の実績	参加人数 (人) 【算出方法】イベントへの参加者数	目標値	700	700	700	700	700	A:目標値達成の見込み				
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度					
		実績値	950	950	500							
		時点	R5年度	R6年度	R7年9月末							
現況及び今後の方向性		8月に啓発イベント「救急・災害を考える集い」を開催し、医療機関の適正受診に関する啓発を行った。来場者については、猛暑の影響もあり、例年の7割ほどとなった。引き続き、イベント開催時期や啓発手段を工夫しながら、圏域の救急医療を守るため連携市町と協力し啓発を行う。										
備考												

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】生活機能の強化

【政策分野】医療・福祉

【施策名】医療体制の確保

取組事項		在宅医療・介護連携の推進									
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町		
		○			○	○		○			
協定の内容	取組内容	高齢者の在宅生活の支援に必要な体制を整備するため、在宅医療と介護の連携を支援する取組を行う。									
	中心市の役割	連携市町と連携し、在宅医療と介護の連携推進のために必要な取組を行う。									
	連携市町の役割	中心市と連携し、事業を実施するとともに、必要な経費を負担する。									
現状と課題		在宅医療・介護連携については、その保険制度が異なることなどにより、多職種間の相互の理解や情報の共有が十分にできていないことがあり、円滑に連携がなされない場合がある。高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、在宅医療と介護を一体的に提供するために必要な支援を行なうことが求められる。									
事業の概要		地域の在宅医療・介護連携を支援する拠点として、在宅医療・介護連携支援センターを設置し、地域の医療・介護資源を把握するとともに、相談窓口の設置や情報共有支援等を行う。									
期待される効果		在宅医療・介護に関わる専門職の連携が円滑に行われることにより、高齢者の在宅生活支援に必要な体制が整備され、地域包括ケアシステムの強化となる。									
事業費 (千円)		R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度					
		17,340	17,340	17,340	17,340	17,340					
実績費 (千円)		17,340									
実施スケジュール	具体的な内容	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度					
	事業の実施								→		
取組の実績	成果指標 (単位)	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況			
	在宅医療・介護連携支援相談窓口設置 (箇所)	目標値	1	1	1	1	1	A:目標値達成の見込み			
	【算出方法】在宅医療・介護連携支援センター設置数	時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度				
		実績値	1	1	1						
	連携推進会議の開催回数 (回)	時点	R5年度	R6年度	R7年9月末			A:目標値達成の見込み			
	【算出方法】在宅医療・介護等の多職種、市町による連携推進会議の開催回数	目標値	2	2	2	2	2				
		時点	R5年度	R6年度	R7年9月末						
	在宅医療・介護等多職種研修回数 (回)	実績値	2	2	1						
	【算出方法】在宅医療・介護等の多職種による研修の開催回数	時点	R5年度	R6年度	R7年9月末			A:目標値達成の見込み			
		目標値	7	7	7	7	7				
現況及び今後の方向性		伊勢地区の医療関係機関や介護事業所が速やかに情報を共有できるクラウドシステムの活用により、在宅医療と介護の連携を促進している。今後も、クラウドシステムを利用した情報共有に対応する事業者の拡大を図るとともに、多職種研修等を通じて関係機関の相互理解を促進し、より円滑な連携による地域包括ケアシステムの強化を図る。									
備考		在宅医療・介護連携支援センター・・・伊勢市、玉城町、度会町、南伊勢町が伊勢地区医師会への業務委託により共同設置。									

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】生活機能の強化

【政策分野】医療・福祉

【施策名】子育て環境の充実

取組事項		病児・病後児の保育施設の運営									
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町		
協定の内容	取組内容	安心して子育てができる環境を提供するため、病児・病後児を保育する専用施設を運営する。									
	中心市の役割	事業の実施に必要な事務を行うとともに、連携市町と連携し、住民等への周知及び運営に必要な経費を負担する									
	連携市町の役割	中心市と連携し、住民等への周知及び運営に必要な経費を負担する。									
現状と課題		少子化の進行やコロナ禍後も続く感染症への高い意識から、利用児童数はコロナ禍前と比較して半数程度で推移しているが、突発的な感染症流行時等で利用が集中するときは、ニーズに対応できない場合がある。									
事業の概要		圏域内の住民の仕事と子育ての両立を支援するため、専用施設を有する小児医療機関に運営を委託し、病児・病後児の保育環境を確保する。また、住民への周知を行う。									
期待される効果		安心して子育てができる環境を提供することができる。									
事業費 (千円)		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度					
		16,393	17,386	17,386	17,386	17,386					
実績費 (千円)		15,292									
実施スケジュール	具体的な内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度					
	病児・病後児の保育施設の運営								→		
	周知活動								→		
取組の実績	成果指標 (単位)	R5	R6	R7	R8	R9	R10	進捗状況			
	利用可能者数 (人)	目標値	960	960	960	960	960	A:目標値達成の見込み			
	【算出方法】年間開所日数 (240日) ×1日に受け入れ可能な人数 (4人)	時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度				
	実績値	892	948	484							
		時点	R5年度	R6年度	R7年9月末						
		目標値									
		時点									
		実績値									
現況及び今後の方向性		連携町や医療機関と調整し、圏域市町の住民が適時・適切に利用できるよう、病児・病後児を保育する専用施設を運営した。また、連携市町内の住民へホームページ等を通じて周知を行った。圏域内の住民の仕事と子育ての両立を支援するため、引き続き、各町や医療機関と連携し、病児・病後児を保育する専用施設の安定した運営を図るとともに、広域利用の推進を図る。									
備考											

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】生活機能の強化

【政策分野】医療・福祉

【施策名】子育て環境の充実

取組事項		ファミリーサポートセンター提供会員の相互利用									
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町		
協定の内容	取組内容	安心して子育てができる環境を提供するため、ファミリーサポートセンターにおける提供会員の相互利用を推進する。									
	中心市の役割	連携市町と連携し、提供会員の情報を共有し、依頼会員へ提供する。									
	連携市町の役割	中心市と連携し、提供会員の情報を共有し、依頼会員へ提供する。									
現状と課題		伊勢市は単独（委託先：NPO法人三重みなみ子どもネットワーク）で、玉城町・度会町・大紀町・南伊勢町（及び大台町）は広域連携（委託先：NPO法人三重県子どもNPOサポートセンター、運営者：NPO法人三重みなみ子どもネットワーク）で事業を実施している。利用にあたっての利便性向上に向けた提供会員の確保が課題となっている。									
事業の概要		子育ての手助けができる人（提供会員）を手助けが必要な人（依頼会員）の依頼に応じて紹介する事業について、各市町で実施する事業の充実に努めつつ、依頼会員の利便性向上を図るために、提供会員の相互利用の推進を図る。また、提供会員の援助内容についてHP・SNS等で紹介するなど周知を行うとともに、提供会員養成講座の開催により会員確保を図る。									
期待される効果		依頼会員への安定的なサービス提供と利便性向上を図ることができる。また、圏域において就労する人に、安心して子育てができる環境を提供することができる。									
事業費（千円）		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度					
		15,219	15,795	15,795	15,795	15,795					
実績費（千円）		14,934									
実施スケジュール	具体的な内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度					
	提供会員の情報共有								→		
	提供会員数の維持								→		
取組の実績	成果指標（単位）	R5	R6	R7	R8	R9	R10	進捗状況			
	提供会員数（人） 【算出方法】各ファミリーサポートセンター提供会員数の合計	目標値	160	160	160	160	160	B:目標値未達成の見込みだが、一定の進捗あり			
		時点	R5年度末	R6年度末	R7年度末	R8年度末	R9年度末				
		実績値	144	142	137						
	利用者数（人） 【算出方法】各ファミリーサポートセンターでの利用者数の合計	目標値	1,100	1,100	1,100	1,100	1,100	A:目標値達成の見込み			
		時点	R5年度末	R6年度末	R7年度末	R8年度末	R9年度末				
		実績値	1,162	1,363	669						
		時点	R5年度末	R6年度末	R7年9月末						
現況及び今後の方向性		乳幼児健診や小学校入学説明会等でのチラシ配布、自治体ホームページでの周知などの情報発信に加え、連携市町で提供会員の情報共有を行い、ファミリーサポートセンターの利用を促進した。提供会員については、継続して募集を行ったが、定年延長等の影響により減少傾向にある。引き続き、各市町の広報やSNSを活用して事業を広く周知するとともに、募集動画をリニューアルするなど周知内容も工夫し、利用者数の増加及び提供会員の確保につなげる。									
備考											

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】生活機能の強化

【政策分野】医療・福祉

【施策名】子育て環境の充実

取組事項		児童発達支援センターの設置、運営								
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町	
		○	○	○	○	○	○	○	○	
協定の内容	取組内容	発達障がい児に対する重層的な地域支援体制を構築するため、児童発達支援センターを設置、運営する。								
中心市の役割		連携市町と連携し、発達障がいを中心とした支援に必要な取組を行う。								
連携市町の役割		中心市と連携し、設置、運営に必要な経費を負担する。								
現状と課題		令和6年4月施行の改正児童福祉法では、「児童発達支援センター」を地域の障がい児とその家族を支援する機関として、また、障害児通所支援事業所に対する中核的な支援機関として、機能の強化を図ることとされている。								
事業の概要		連携市町における中核的な支援機関として、伊勢市児童発達支援センターにおいて、専門的な知識に基づく技術的な助言・援助を障害児通所支援事業者等へ行う。また、通所事業や保育所等訪問支援事業、地域支援事業、相談支援事業を実施する。								
期待される効果		児童発達支援センターがその機能を発揮することにより、地域における障がい児支援の質の向上に繋がる。								
事業費 (千円)		R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度				
		63,913	70,216	70,216	70,216	70,216				
実績費 (千円)		62,602								
実施スケジュール	具体的な内容	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度				
	通所事業、保育所等訪問支援事業の実施								→	
	地域支援事業の実施								→	
	相談支援事業の実施								→	
取組の実績	成果指標 (単位)		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況	
	通所事業、保育所等訪問支援事業の延べ利用者数 (人)	目標値		4,680	4,680	4,680	4,680	4,680	A:目標値達成の見込み	
	【算出方法】通所事業、保育所等訪問支援事業の年間延べ利用者数	時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度		
	実績値	5,161	5,204	3,106						
	事業者研修会の実施回数 (回)	目標値		3	3	3	4	4	A:目標値達成の見込み	
	【算出方法】障害児通所支援事業者への研修会の年間実施回数	時点	R5年度	R6年度	R7年9月末					
	実績値	2	3	1						
	家族支援事業の実施回数 (回)	目標値		4	4	4	5	5	A:目標値達成の見込み	
	【算出方法】通所児童の保護者向け学習会等の年間実施回数	時点	R5年度	R6年度	R7年9月末					
	実績値	3	4	3						
	時点	R5年度	R6年度	R7年9月末						
現況及び今後の方向性		運営費の負担や運営に関する協議の実施など、連携市町で協力しておおぞら児童園を運営し、障がい児支援を行っている。また、おおぞら児童園にて、研修会の開催等による事業所支援を行うとともに、ペアレント・トレーニングの実施等による家族支援を行い、圏域における障がい児支援の質の向上を図った。 引き続き専門的な支援を行うとともに、支援の質の向上を図るために、専門性を持った人材の確保や育成を進める。								
備考										

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】 生活機能の強化

【政策分野】 産業振興

【施策名】 商工業の振興

取組事項		伊勢志摩総合地方卸売市場の経営基盤の確立									
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町		
協定の内容	取組内容	圏域消費者への生鮮食料品の安定供給及び生産者の安定的な販路の確保を図るため、伊勢志摩総合地方卸売市場の安定した経営基盤の確立を推進する。									
	中心市の役割	連携市町と連携し、伊勢志摩総合地方卸売市場の運営に関する調整及び支援を行う。									
	連携市町の役割	中心市と連携し、伊勢志摩総合地方卸売市場の運営に関する協議及び支援を行う。									
現状と課題		伊勢志摩総合地方卸売市場については、自立経営への転換を図り、民間主導の経営化を進めていくことが求められている。また、昭和57年に建設された施設については、老朽化が進んでいることから、修繕及び設備更新を計画的に実施する必要がある。									
事業の概要		持続可能な経営が可能となるよう、経営改善に取り組む。									
期待される効果		生産者には確実な販路を、流通・小売業者には生鮮食料品の安定的・効率的な取引の場を提供できる。消費者には「安全・安心」な生鮮食料品の安定した供給を行うことができる。									
事業費 (千円)		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度					
実績費 (千円)		0	0	0	0	0					
実施スケジュール	具体的な内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度					
	経営改善								→		
取組の実績	成果指標 (単位)	R5	R6	R7	R8	R9	R10	進捗状況			
	繰越利益剰余金(千円)	目標値	96,500	101,500	106,500	111,500	116,500	A:目標値達成の見込み			
	【算出方法】 卸売市場における繰越利益剰余金	時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度				
		実績値	94,434	106,628	120,794						
		時点	R5年度	R6年度	R7年9月末						
		目標値									
		時点									
		実績値									
現況及び今後の方向性		伊勢志摩地域の拠点市場として、地域住民への生鮮食料品の安定供給と、地域生産者の安定的な販路維持を図るためにも、当卸売市場の経営の安定化は必要不可欠である。平成27年度には開業以来初めて累積黒字を計上し、以降順調に増加させていることから、今後も関係市町が連携して運営に関し調整、支援していく。									
備考											

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】生活機能の強化

【政策分野】産業振興

【施策名】商工業の振興

取組事項		中小企業勤労者及び事業主への福利厚生事業の充実に向けた支援								
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町	
協定の内容	取組内容	中小企業の振興を図るために、圏域の中小企業の勤労者及び事業主における勤労者福祉制度の充実に取り組む。								
	中心市の役割	連携市町と連携し、一般社団法人伊勢地域勤労者福祉サービスセンターの運営に関する協議及び支援を行うとともに、事業所等へ情報発信を行う。								
	連携市町の役割	中心市と連携し、一般社団法人伊勢地域勤労者福祉サービスセンターの運営に関する協議及び支援を行うとともに、事業所等へ情報発信を行う。								
現状と課題		当地域に所在する企業の大半は中小企業であるが、中小企業は独自に福利厚生事業を実施することが難しいことが多い。労働力人口が減少する中、人材確保、雇用定着を図る上でも福利厚生事業の充実が求められている。 福利厚生事業を提供する一般社団法人伊勢地域勤労者福祉サービスセンターの会員数は、令和元年度から減少しており、安定的な運営を行うため会員の維持確保が課題となっている。								
事業の概要		中小企業等の勤労者及び事業主の福利厚生事業を行う一般社団法人伊勢地域勤労者福祉サービスセンターに対し、事業運営に必要な補助金を交付する。また、充実したサービスを提供するため、会員の維持確保に向けて同センターの周知を行う。								
期待される効果		地域企業の人材確保及び勤労者の定着に繋がる。								
事業費 (千円)		R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度				
		13,861	13,861	13,861	13,861	13,861				
実績費 (千円)		13,861								
実施スケジュール	具体的な内容	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度				
	サービスセンターの運営支援								→	
	広報活動								→	
取組の実績	成果指標 (単位)	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況		
	会員事業所数 (社)	目標値	827	834	841	848	855	B:目標値未達成の見込みだが、一定の進捗あり		
	【算出方法】一般社団法人伊勢地域勤労者福祉サービスセンターにおける会員事業所数	時点	R6. 4. 1	R7. 4. 1	R8. 4. 1	R9. 4. 1	R10. 4. 1			
	実績値	821	812	811						
	会員数 (人)	目標値	5,100	5,150	5,200	5,250	5,300	A:目標値達成の見込み		
	【算出方法】一般社団法人伊勢地域勤労者福祉サービスセンターにおける会員数	時点	R6. 4. 1	R7. 4. 1	R7年9月1日					
	実績値	5,213	5,187	5,266						
	現況及び今後の方向性	時点	R6. 4. 1	R7. 4. 1	R7年9月1日					
		会員事業所からの未加入事業者の紹介やセンター職員による勧誘など加入拡大に努めたものの、中小事業者の廃業等による減少もあり、会員事業所数は横ばいとなっている。一方で、従業員数の多い事業所が新たに加入したことから、会員数は増加している。 引き続き、センター職員による未加入企業への働きかけを進めるとともに、対象地域の拡大に向けた議論を行う。								
備考										

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】生活機能の強化

【政策分野】産業振興

【施策名】商工業の振興

取組事項		企業立地の推進									
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町		
協定の内容	取組内容	圏域の経済活性化及び雇用の拡大を確保するため、企業立地を推進する。									
	中心市の役割	三重県と連携を図るとともに、連携市町と連携し、産業集積の形成及び地域経済の活性化を図るために必要な取組を行う。									
	連携市町の役割	中心市と連携し、産業集積の形成及び地域経済の活性化を図るために必要な取組を行う。									
現状と課題		三重県内では、道路交通網・リニア新幹線の整備状況から北勢方面への企業立地が盛んである。 伊勢志摩地域には大規模な工業団地がなく、個別にPRしても効果が薄い。 伊勢志摩地域が共同で企業誘致活動をし、操業環境を周知していくことが課題である。									
事業の概要		伊勢志摩地域へ企業を誘致するため、三重県が主催する企業セミナーで圏域の操業環境等のPRに取り組む。 また、工場等の新設及び増設等の設備投資による事業拡張を推進する。									
期待される効果		広域で連携して企業立地を促進することにより、圏域の経済活性化及び雇用の確保に繋がることが期待される。									
事業費 (千円)		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度					
		492	973	973	973	973					
実績費 (千円)		973									
実施スケジュール	具体的な内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度					
	三重県主催企業セミナーでのPR								→		
	工場等の設備投資支援								→		
取組の実績	成果指標 (単位)	R5	R6	R7	R8	R9	R10	進捗状況			
	雇用が発生する設備投資件数 (件)	目標値	20	20	20	20	20	A:目標値達成の見込み			
	【算出方法】半島振興法の確認申請を行った事業者のうち雇用が発生する設備導入を行った事業者の数	時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度				
	実績値	16	21	12							
	雇用創出人数 (人)	時点	R5年度	R6年度	R7年9月末			B:目標値未達成の見込みだが、一定の進捗あり			
	【算出方法】上記の設備投資に伴う雇用創出人数	目標値	80	80	80	80	80				
	実績値	63	85	31							
	時点	R5年度	R6年度	R7年9月末							
現況及び今後の方向性		設備投資件数は達成見込み、雇用創出人数については、目標値未達成の見込みであるが一定の雇用を創出している。 引き続き、三重県及び圏域市町で連携し、伊勢志摩地域の操業環境等をPRする。また、各市町において、税優遇制度等を活用し、企業立地の推進・企業の圏域外への流出防止に取り組み、圏域の経済活性化および雇用の拡大に努める。									
備考											

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】生活機能の強化

【政策分野】産業振興

【施策名】商工業の振興

取組事項		イベント等の誘致・開催							
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
協定の内容	取組内容	圏域内の多産業への経済波及と交流人口の拡大を図るため、連携市町、県、民間団体等が集客力・発信力の高いイベント等を誘致・開催する。							
	中心市の役割	各イベント等の誘致及び開催に取り組む組織等において、連携市町と連携し、必要な取組を行う。							
	連携市町の役割	各イベント等の誘致及び開催に取り組む組織等において、中心市と連携し、必要な取組を行う。							
現状と課題		令和7年に開催が予定されている大阪・関西万博や神宮式年遷宮関連行事の開始に伴う民族伝統行事の開催等を誘客の契機と捉え、継続的に圏域の魅力を発信することが求められている。							
事業の概要		圏域内の多産業への経済波及と交流人口の拡大を図るため、連携市町、県、民間団体等が集客力・発信力の高いイベント等を誘致・開催する。							
期待される効果		圏域内の多産業への経済波及が期待されるとともに、伊勢志摩圏域の魅力が国内外に発信されることによる交流人口の拡大等に繋がる。							
事業費（千円）		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度			
		12,400	11,350	1,350	1,350	1,350			
実績費（千円）		12,250							
実施スケジュール	具体的な内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度			
	イベントの誘致・開催								→
取組の実績	成果指標（単位）		R5	R6	R7	R8	R9	R10	進捗状況
	誘致活動数（働きかけた団体数）（件）	目標値	2	2	2	2	2	2	A:目標値達成の見込み
	【算出方法】連携市町による誘致活動件数の合計	時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	3	2	2				
	イベントの開催件数（件）	時点	R5年度	R6年度	R7年9月末				A:目標値達成の見込み
	【算出方法】連携市町における全国規模のイベント開催件数の合計	目標値	1	1	1	1	1	1	
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	1	3	0				
		時点	R5年度	R6年度	R7年9月末				
現況及び今後の方針		連携市町や民間団体等連携し、集客力・発信力の高いイベント等の誘致を行い、開催に向けた調整を行った。 引き続き、連携市町、関連団体と調整を行い、イベント誘致による経済活性化、交流人口の拡大に取り組む。							
備考		令和7年度開催 第19回U18/第56回U16陸上競技大会（10月17~19日） 山田優杯 鳥羽・エペフェンシング大会（12月20、21日）							

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】生活機能の強化

【政策分野】産業振興

【施策名】商工業の振興

取組事項		創業に関する支援									
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町		
協定の内容	取組内容	産業の振興、雇用の創出を図るため、創業を支援する。									
	中心市の役割	連携市町及び関係機関等と連携し、創業に関する支援を行う。									
	連携市町の役割	中心市及び関係機関等と連携し、創業に関する支援を行う。									
現状と課題		これまで地域経済を支えてきた中小企業・小規模事業者の数が年々減少を続けており、地域の活力が失われつつある。また、進学や就職などの理由で地域を離れ愛知県等3大都市圏へ転出する若者が後を絶たず、人口減少に拍車をかけている。このような状況において、新たな地域経済の担い手を創出するため、創業の促進が求められている。									
事業の概要		産業の振興、雇用の創出を図るため、創業を支援する。									
期待される効果		圏域における創業を促進することで、新たな担い手による地域産業の振興及び雇用の創出に繋がる。									
事業費 (千円)		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度					
		33,046	32,236	33,829	33,829	33,829					
実績費 (千円)		26,151									
実施スケジュール	具体的な内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度					
	創業支援事業計画に定める創業セミナー等の開催								→		
	創業に関する情報の収集・発信、共有								→		
	創業希望者への補助の実施								→		
取組の実績	成果指標 (単位)	R5	R6	R7	R8	R9	R10	進捗状況			
	創業セミナー等参加者数 (人)	目標値	380	385	390	395	400	A:目標値達成の見込み			
	【算出方法】創業支援事業計画に定める創業セミナー等への参加者の年間延べ人数	時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度				
	実績値	386	411	154							
	創業希望者への補助件数 (件)	時点	R5年度	R6年度	R7年9月末			B:目標値未達成の見込みだが、一定の進捗あり			
	【算出方法】創業希望者に対する補助金 (利子補給及び保証料補給を除く) の交付件数	目標値	40	42	44	46	48				
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度				
	実績値	32	33	22							
		時点	R5年度	R6年度	R7年9月末						
現況及び今後の方向性		創業セミナー等参加者数は、関係団体と連携してPRに努めており、目標達成見込みである。創業希望者への補助件数については、目標値未達成の見込みであり、引き続き、関係課や関係団体と連携し、創業希望者への補助金の案内を行う。また、移住相談イベントにおいて創業補助に関するPRを行うなど、圏域の内外に問わらず広く制度の周知に努めた。今後も、各市町において創業希望者や創業者の支援を継続することに加え、連携市町が協力して伊勢志摩定住自立圏で創業することの魅力を発信し、雇用の創出につなげる。									
備考											

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】生活機能の強化

【政策分野】産業振興

【施策名】農林漁業の振興

取組事項		鳥獣被害防止対策									
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町		
協定の内容	取組内容	有害鳥獣による農作物等への被害を防止するため、鳥獣被害対策を推進する。									
	中心市の役割	連携市町と連携し、鳥獣被害防止対策に必要な取組を行う。									
	連携市町の役割	中心市と連携し、鳥獣被害防止対策に必要な取組を行う。									
現状と課題		鳥獣被害防止対策は各市町において積極的に取り組んでいるが、有害鳥獣の繁殖率は高く、農作物等への被害に苦慮している状況である。今後も各市町での取組を進めながらも、圏域で連携・協力しながら鳥獣被害防止対策を実施していくことが有効である。									
事業の概要		有害鳥獣による農林水産業被害を防止するため、目撃情報の共有など、市町が連携して対策を実施する。									
期待される効果		市町が連携して対策を実施することにより、効果的な被害防止を図ることができる。									
事業費（千円）		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度					
		112,221	133,155	133,155	133,155	133,155					
実績費（千円）		98,671									
実施スケジュール	具体的な内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度					
	連携市町間での情報共有								→		
	連携して行う事業の検討			→							
	連携して行う事業の実施								→		
取組の実績	成果指標（単位）		R5	R6	R7	R8	R9	R10	進捗状況		
	鳥獣被害額（千円） 【算出方法】連携市町での獣害被害額の合計	目標値		38,153	37,390	36,642	35,909	35,190	-		
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度			
		実績値	48,199	58,034	—						
		時点	R5年度	R6年度	R7年9月末						
		目標値									
		時点									
		実績値									
		時点									
現況及び今後の方向性		連携市町及び三重県において、鳥獣の出没状況や被害対策に関する課題等の情報共有を行っている。また、連携市町間での被害対策の強化のため、連携事業として合同勉強会を定期的に開催している。 鳥獣被害額については、物価高騰に伴い農作物単価も高騰していることで、金額ベースでは増加傾向にある。 これらの状況も踏まえ、今後も引き続き連携市町や県との情報共有を密にし、効果的な被害対策に取り組んでいく。									
備考		成果指標について、R7.9時点での集計未実施のため実績値なし。									

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】生活機能の強化

【政策分野】産業振興

【施策名】観光の振興

取組事項		伊勢志摩地域への旅客誘致									
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町		
		○	○	○	○	○	○	○	○		
協定の内容	取組内容	伊勢志摩地域への旅客誘致を図り、伊勢志摩地域の情報発信、修学旅行の誘致等の取組を行う。									
	中心市の役割	公益社団法人伊勢志摩観光コンベンション機構における連携事業を中心とし、連携市町と連携し、必要な取組を行う。									
	連携市町の役割	公益社団法人伊勢志摩観光コンベンション機構における連携事業を中心とし、中心市と連携し、必要な取組を行う。									
現状と課題		伊勢志摩地域の観光客増加を目的に、地域が一体となって誘客宣伝事業を推進している。特に、令和15年予定の第63回神宮式年遷宮諸祭・諸行事を視野に入れた取り組みを進める必要がある。									
事業の概要		伊勢志摩地域の情報発信、修学旅行等の誘致、第63回神宮式年遷宮を見据えた事業等を実施し、伊勢志摩地域への旅客誘致を図る。また、観光型MaaS事業の実施により伊勢志摩地域の観光DXを推進する。インバウンド事業については、高付加価値化事業により滞在の長期化や消費促進などを図る。									
期待される効果		伊勢志摩地域の魅力創出・発信を行うことにより、伊勢志摩地域への観光客の増加に繋がる。									
事業費 (千円)		R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度					
		71,188	81,400	82,850	82,850	82,850					
実績費 (千円)		71,188									
実施スケジュール	具体的な内容	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度					
	観光情報の発信								→		
	高付加価値化事業								→		
	いせしませんぐう旅事業								→		
取組の実績	成果指標 (単位)		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況		
	旅客数 (万人)	目標値		2,538	2,591	2,772	2,966	3,032	-		
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度			
		実績値	2,489	2,621	-						
		時点	R5年度	R6年度	R7年9月末						
	【算出方法】三重県観光レクリエーション入込客数推計書 伊勢志摩地域 (伊勢志摩地域入込客延数)	目標値									
		時点									
		実績値									
		時点									
現況及び今後の方向性		連携市町と協力し、各種イベントに出展するなど情報発信に努めたほか、修学旅行等の誘致、観光型MaaS事業による伊勢志摩地域の観光DXの推進など、観光誘客の取組を進めた。また、インバウンド誘致のため、富裕層向けツアーモデルの検証や販路開拓、国外イベントへの出展など、高付加価値化事業に取り組んでいる。今後は、第63回神宮式年遷宮を視野に入れた持続可能な観光地域づくりにも取組ながら、観光誘客の取組を進めていく。									
備考		<ul style="list-style-type: none"> <li>伊勢志摩観光コンベンション機構：伊勢市、鳥羽市、志摩市、玉城町、度会町、大紀町、南伊勢町、明和町、多気町、松阪市、三重県他民間団体</li> <li>「三重県観光レクリエーション入込客数推計書観光客実態調査報告書」の発表が年1回のため、実績値なし。</li> <li>取組の成果指標の対象市町は、「伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町、玉城町、度会町」のみで「明和町、大紀町」は含まれない。</li> </ul>									

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】生活機能の強化

【政策分野】産業振興

【施策名】観光の振興

取組事項		伊勢熊野地域への旅客誘致							
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
協定の内容	取組内容	伊勢・熊野地域への旅客誘致を図り、お伊勢参りと熊野詣でに関する情報発信等の取組を行う。							
	中心市の役割	伊勢熊野観光連絡協議会の事務局運営を行うとともに、連携市町と連携し、必要な取組を行う。							
	連携市町の役割	伊勢熊野観光連絡協議会の構成団体として中心市と連携し、必要な取組を行う。							
現状と課題		歴史的なつながりの深い伊勢熊野地域が協力して宣伝事業に取り組んでいる。外国人観光客への訴求も視野に入れつつ、伊勢熊野地域への来訪意欲向上に資する取り組みを協議会構成団体と連携しながら推進していく必要がある。							
事業の概要		国内だけでなく国外も視野に入れた、お伊勢参りと熊野詣でを目的とした旅客の誘致を行い、協議会構成団体間の相互の情報交換及び情報発信に取り組む。							
期待される効果		伊勢熊野地域の魅力創出・発信を行うことにより、伊勢熊野地域への観光客の増大に繋がる。							
事業費 (千円)		R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度			
		300	300	300	300	300			
実績費 (千円)		300							
実施スケジュール	具体的な内容	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度			
	観光パンフレットの作成・増刷								→
	ノベルティの作成								→
	PRイベントの開催								→
取組の実績	成果指標 (単位)	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況	
	熊野古道来訪者数 (人)	目標値	390,000	410,000	440,000	-	-		
	【算出方法】熊野古道伊勢路来訪者数推計値(一般社団法人東紀州地域振興公社)	時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	-
		実績値	304,695	350,710	-				
		時点	R5年度	R6年度	R7年9月末				
		目標値							
		時点							
		実績値							
現況及び今後の方向性		協議会構成団体間の相互の情報交換を行うとともに、県外でのイベントに出展し、アウトドアに関連したノベルティや協議会・会員市町の観光パンフレットを配布するなど伊勢熊野地域のPRに取り組んでいる。来訪者数については、令和6年度は世界遺産登録20周年特別記念企画の実施により増加した。引き続き、外国人観光客への情報発信にも注力し、伊勢熊野地域への来訪意欲向上に資する取組を協議会構成団体と連携しながら推進していく。							
備考		<ul style="list-style-type: none"> <li>協議会構成団体：伊勢市、鳥羽市、玉城町、多気町、大台町、大紀町、紀北町、尾鷲市、熊野市、紀宝町、新宮市、那智勝浦町、太地町、田辺市</li> <li>「熊野古道来訪者数」について、東紀州地域振興公社のデータ公表が年1回であるため、実績値なし。</li> </ul>							

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】生活機能の強化

【政策分野】産業振興

【施策名】観光の振興

取組事項		伊勢志摩国立公園の自然保護、PR、地域振興							
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
		○	○	○				○	
協定の内容	取組内容	伊勢志摩国立公園の自然保全及び地域振興を図るため、情報発信、自然観察、清掃活動等の取組を行う。							
	中心市の役割	一般財団法人伊勢志摩国立公園協会、伊勢志摩国立公園自然ふれあい推進協議会を活用するなどし、連携市町と連携し、必要な取組を行う。							
	連携市町の役割	一般財団法人伊勢志摩国立公園協会、伊勢志摩国立公園自然ふれあい推進協議会を活用するなどし、中心市と連携し、必要な取組を行う。							
現状と課題		令和3年3月に策定した「ステップアッププログラム2025」に基づき、環境整備を進める同時に、国立公園指定80周年（令和8年）も見据え、連携市町及び民間事業者が連携し、国立公園地域へ観光客を惹きつける取組を行う必要がある。							
事業の概要		調査研究、保護維持、開発改善、紹介宣伝、目的を同じくする他団体との情報共有のほか、案内ガイド育成を含む自然ふれあい活動の促進、美化清掃、横山ビジターセンターの管理運営等に取り組む。また、国立公園満喫プロジェクトの開始に伴い、地域協議会で作成した「ステップアッププログラム」の達成に必要な活動に取り組む。							
期待される効果		外国人を含む伊勢志摩地域の自然を目的に訪れる観光客が増加することに繋がる。							
事業費（千円）		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度			
		263,247	285,442	285,442	275,442	275,442			
実績費（千円）		237,027							
実施スケジュール	具体的な内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度			
	伊勢志摩国立公園ステップアッププログラムに基づく取組						→		
	横山ビジターセンターの管理運営						→		
	清掃活動、自然観察会等の実施						→		
取組の実績	成果指標（単位）	R5	R6	R7	R8	R9	R10	進捗状況	
	伊勢志摩国立公園の訪日外国人利用者数（人）	目標値	71,000	71,000	71,000	71,000	71,000	-	
	【算出方法】伊勢志摩国立公園の訪日外国人利用者数推計値（国立公園訪日外国人利用者数推計値（環境省））	時点	R5年	R6年	R7年	R8年	R9年		
		実績値	66,940	94,186	-				
	横山ビジターセンターの利用者数（人）	時点	R5年	R6年	R7年9月末			A:目標値達成の見込み	
	【算出方法】横山ビジターセンターの年間利用者数	目標値	48,000	48,000	49,000	49,000	50,000		
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度		
		実績値	39,246	40,138	25,525				
	自然観察会の参加者数（人）	時点	R5年度	R6年度	R7年9月末			B:目標値未達成の見込みだが、一定の進捗あり	
	【算出方法】伊勢志摩国立公園自然ふれあい推進協議会による自然観察会の年間参加者数	目標値	280	280	290	290	290		
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度		
		実績値	205	320	9				
		時点	R5年度	R6年度	R7年9月末				
現況及び今後の方向性		令和6年1月に横山展望台のスロープ改修工事で利便性が上がったこともあり、来場者が増えており、隣接するビジターセンターも観光バスで訪れる観光客が増加している。自然観察会は、猛暑が続いていたため、夏場の開催は控えていたが、秋以降は多くのイベント開催を予定している。また、「ステップアッププログラム2025」（令和3年3月策定）に基づいて、伊勢志摩国立公園の自然保護やPR等を行うとともに、令和8年度に迎える伊勢志摩国立公園指定80周年に向けて、自然体験や映像作製など観光客を惹きつける取り組みを実施していく。							
備考		「伊勢志摩国立公園の訪日外国人利用者数」は年1回の公表であるため、実績なし。							

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】生活機能の強化

【政策分野】その他

【施策名】自転車の活用推進

取組事項		自転車を活用したまちづくり							
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
		○	○	○	○	○	○	○	○
協定の内容	取組内容	観光振興、健康の増進、安心・安全利用、環境への負荷の低減等の公共の利益増進に向けて、自転車を活用した取組を行う。							
	中心市の役割	自転車を活用したまちづくりに取り組む組織等において、連携市町と連携し、必要な取組を行う。							
	連携市町の役割	自転車を活用したまちづくりに取り組む組織等において、中心市と連携し、必要な取組を行う。							
現状と課題		ナショナルサイクルルートに指定された太平洋岸自転車道や各市町の交通の結節点などにおいて、安全で快適な自転車の通行環境の確保が必要である。このことから、令和4年度に伊勢志摩地域における自転車等活用検討会を設立し、生活及び観光の交通手段として自転車活用に向けた取組の検討を進めている。							
事業の概要		伊勢志摩地域自転車等活用推進計画を策定し、広域による推進体制のもと、サイクルツーリズムの推進や自転車通行空間の確保、健康づくりの啓発、安全利用の促進など、地域一体で自転車を活用した取組を行う。							
期待される効果		自転車の活用により、観光振興、健康の増進、安心・安全利用、環境への負荷の低減等の公共の利益増進が期待できる。							
事業費 (千円)		R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度			
		11,261	12,597	12,597	12,597	14,597			
実績費 (千円)		8,760							
実施スケジュール	具体的な内容	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度			
	自転車等活用推進計画に基づく取組						→		
取組の実績	成果指標 (単位)	R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況	
	レンタサイクル等の貸出数 (台)	目標値	6,800	7,300	7,600	7,800	8,100	A:目標値達成の見込み	
	【算出方法】連携市町の貸出数の合計	時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度		
		実績値	6,891	8,202	3,701				
	市町主導のサイクルルート設定数 (ルート) (累計)	時点	R5年度	R6年度	R7年9月末			B:目標値未達成の見込みだが、一定の進捗あり	
	【算出方法】連携市町のサイクルルート設定数の合計	目標値	4	5	7	9	10		
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度		
		実績値	3	3	3				
	自転車関連交通事故件数 (件)	時点	R5年度	R6年度	R7年9月末			B:目標値未達成の見込みだが、一定の進捗あり	
	【算出方法】連携市町の自転車関連交通事故件数の合計	目標値	345	338	331	324	315		
		時点	R5年	R6年	R7年	R8年	R9年		
		実績値	395	350	287				
		時点	R5年	R6年	R7年9月末				
現況及び今後の方向性		令和6年2月に策定・施行された「伊勢志摩地域自転車等活用推進計画」および「伊勢志摩地域自転車ネットワーク計画」に基づき、各分野で取組を進めている。 サイクルルートの設定数については、各市町と情報共有しながら、ナショナルサイクルルートを絡めたルートの策定に向けた調査を実施している段階であり、今年度は目標未達の見込。 今年度は三重県が主となったサイクルイベントの開催を予定されており、今後も各市町と情報共有しながら、自転車利用環境、観光、健康、スポーツ、交通安全、環境等あらゆる分野で自転車が活用されるよう伊勢志摩地域一体で取り組む。							
備考									

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】結びつきやネットワークの強化

【政策分野】公共交通

【施策名】交通ネットワークの充実

取組事項		廃止代替路線バスの維持							
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
協定の内容	取組内容	圏域住民の交通手段を確保するため、廃止代替路線バスの維持を推進する。							
	中心市の役割	連携市町と連携し、相互の地域関係住民の意見を調整し、推進に必要な取組を行う。							
	連携市町の役割	中心市と連携し、相互の地域関係住民の意見調整に協力し、推進に必要な取組を行う。							
現状と課題		新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者数が減少し、コロナ禍前の状況には戻っていない。また、運行経費の増加や運転手不足などの課題がある。							
事業の概要		地域住民の交通手段を確保するため、利用促進を行いながら伊勢玉城線の運行を維持する。							
期待される効果		交通手段を有しない交通弱者(高齢者等)が、通学、通院、通勤等の交通手段の確保ができる。また、伊勢神宮等に訪れた観光客等を田丸城跡などの観光資源への誘客により、周辺地域の活性化と回遊性の向上が期待できる。							
実施スケジュール	事業費 (千円)	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度			
		13,021	14,502	14,502	14,502	14,502			
取組の実績	【算出方法】伊勢玉城線の年間推計輸送人員 (三交伊勢志摩交通(株))	実績費 (千円)	13,479						
		具体的な内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度		
		伊勢玉城線の運行維持						→	
現況及び今後の方向性	成果指標 (単位)	成果指標 (単位)	R5	R6	R7	R8	R9	R10	進捗状況
		利用者数 (人)	目標値		33,800	33,800	33,800	33,800	B:目標値未達成の見込みだが、一定の進捗あり
		【算出方法】伊勢玉城線の年間推計輸送人員 (三交伊勢志摩交通(株))	時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	
		実績値	29,100	30,200	13,400				
		時点	R5年度	R6年度	R7年9月末				
		目標値							
		時点							
		実績値							
		時点							
備考									

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】結びつきやネットワークの強化

【政策分野】公共交通

【施策名】交通ネットワークの充実

取組事項		コミュニティバス運行の連携								
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町	
協定の内容	取組内容	圏域住民の交通手段を確保するため、コミュニティバス等交通ネットワークの充実を推進する。								
	中心市の役割	連携市町と連携し、相互の地域関係住民の意見を調整し、推進に必要な取組を行う。								
	連携市町の役割	中心市と連携し、相互の地域関係住民の意見調整に協力し、推進に必要な取組を行う。								
現状と課題		新型コロナウイルス感染症の影響により利用者数は減少したものの、コロナ禍後は利用者数が回復し、増加してきている。一方で、運行経費の増加や運転手不足等の要因もあり、地域公共交通の維持には、効果的、効率的な運行が必要となっている。 AI配車システムを活用したAIオンデマンド交通などについての調査・研究を行いながら、広域連携の可能性について協議を進めていく必要がある。								
事業の概要		圏域住民の移動手段を確保するため、利便性が高く、効率的なアクセス方法を検討・検証しながら、生活圏に合わせた複数市町の連携による運行を行う。								
期待される効果		圏域全体で多様な交通手段も含め、効率的・効果的なコミュニティバス運行のあり方を検討することで、圏域住民の生活交通の確保と利便性向上及び地域間の交通ネットワーク強化が期待できる。								
事業費 (千円)		R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度				
		71,879	76,771	76,771	76,771	76,771				
実績費 (千円)		63,579								
実施スケジュール	具体的な内容		R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度			
	コミュニティバスの連携についての協議								→	
	コミュニティバス相互利用の実施								→	
取組の実績	成果指標 (単位)		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況	
	利用者数 (人) 【算出方法】年間利用者数		目標値	36,600	36,600	36,600	36,600	36,600	A:目標値達成の見込み	
	時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度			
	実績値	38,045	40,244	19,234						
	時点	R5年度	R6年度	R7年9月末						
			目標値							
			時点							
			実績値							
			時点							
現況及び今後の方向性		各市町で連携し、圏域住民の生活圏に合わせた運行を行っており、住民の利便性向上が図られている。 一方、運行経費の増加や運転手不足等により、効果的、効率的な運行が必要であることから、連携市町で連携し、AIオンデマンド交通などの調査・研究を行い、利用が少ない区間や路線の効果的・効率的な運用について検討を行う。								
備考		<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉バスの運行（玉城町） 玉城町保健福祉会館～伊勢市小俣図書館の輸送</li> <li>・沼木バス（デマンド）の運行（伊勢市） 度会町のスーパーを経由、度会町との連携（川口～南伊勢高校度会校舎前）</li> <li>・町営バスの運行（度会町） 町営バスと沼木バスの接続（グッディなど）と連携</li> <li>・おかげバスの運行（伊勢市） 「東大淀・明野・小俣線」の明和町（山大淀）までの運行区間延長</li> <li>・町民バスの運行（明和町） 町民バス（大淀ルート）とおかげバスの接続（大淀、山大淀）</li> </ul>								

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】結びつきやネットワークの強化

【政策分野】公共交通

【施策名】道路網の整備促進

取組事項		県道鳥羽松阪線の建設促進							
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
協定の内容	取組内容	生活圏の拡大と利便性の向上などを図り、相互を結ぶ県道鳥羽松阪線伊勢鳥羽地区の道路整備事業を推進する。							
	中心市の役割	連携市町と連携し、相互の地域関係住民の意見を調整し、推進に必要な取組を行う。							
	連携市町の役割	中心市と連携し、相互の地域関係住民の意見調整に協力し、推進に必要な取組を行う。							
現状と課題		県道鳥羽松阪線の伊勢市から鳥羽市の区間は、道路幅も狭く交通量の増加により渋滞が発生していることから、事業の早期完成を目指して昭和53年度に県道鳥羽松阪線伊勢鳥羽地区改良促進連絡協議会を設置した。未完成区間は三重県伊勢建設事務所管内の約430m（R23号楠部町交差点付近～五十鈴川左岸堤防付近）のみとなっている。							
事業の概要		伊勢市、鳥羽市及び地元関係住民相互間の連絡調整を図り、道路管理者である三重県に要望活動を行う。							
期待される効果		相互間の所要時間短縮及び交通安全対策を図ることができる。また、そのことにより、生活圏の拡大と利便性が向上する。							
事業費（千円）		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度			
		20	20	20	20	20			
実績費（千円）		20							
実施スケジュール	具体的な内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度			
	要望活動							→	
取組の実績	成果指標（単位）	R5	R6	R7	R8	R9	R10	進捗状況	
	要望活動（回）	目標値	1	1	1	1	1	A:目標値達成の見込み	
	【算出方法】要望活動実施回数	時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度		
		実績値	1	1	0				
		時点	R5年度	R6年度	R7年9月末				
		目標値							
		時点							
現況及び今後の方向性		渋滞解消に向けた早期の全線完成について、引き続き要望活動を行っていく。							
備考		構成：伊勢市楠部町、伊勢市朝熊町、伊勢市中村町、伊勢市一宇田町、伊勢市鹿海町、鳥羽市池上町、鳥羽市堅神町、鳥羽市屋内町、鳥羽市鳥羽事務局：伊勢市、鳥羽市							

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】結びつきやネットワークの強化

【政策分野】公共交通

【施策名】道路網の整備促進

取組事項		県道伊勢南島線の建設促進								
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町	
協定の内容	取組内容	生活圏の拡大と利便性の向上などを図り、相互を結ぶ県道伊勢南島線の道路整備事業を推進する。								
	中心市の役割	連携市町と連携し、相互の地域関係住民の意見を調整し、推進に必要な取組を行う。								
	連携市町の役割	中心市と連携し、相互の地域関係住民の意見調整に協力し、推進に必要な取組を行う。								
現状と課題		県道伊勢南島線は地域の発展に極めて重要な役割があるが、道路幅が狭く、交通量の増加により交通事故や渋滞が発生していることから、事業の早期完成を目指して昭和62年度に伊勢南島線道路改良促進期成同盟会を設置した。新野見坂トンネル開通、津村バイパス供用開始により利便性は向上したが、度会町地内の局所的な浸水や雨量による通行規制に起因した交通網の分断、伊勢市中島2丁目地内から津村町地内までの区間の歩道未整備等の課題が残っている。								
事業の概要		同盟会の意見をとりまとめ、道路管理者である三重県との情報共有及び危険箇所等の勉強会を行う。								
期待される効果		相互間の所要時間短縮及び交通安全対策を図ることができる。また、そのことにより、生活圏の拡大と利便性が向上する。								
事業費 (千円)		R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度				
		3	0	0	0	0				
実績費 (千円)		0								
実施スケジュール	具体的な内容	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度				
	勉強会								→	
取組の実績	成果指標 (単位)		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況	
	勉強会 (回)	目標値		1	1	1	1	1	A:目標値達成の見込み	
	【算出方法】勉強会実施回数	時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度		
		実績値	1	0	1					
		時点	R5年度	R6年度	R7年9月末					
		目標値								
		時点								
		実績値								
		時点								
		目標値								
現況及び今後の方向性		引き続き、連携市町の相互間の意見をまとめ、三重県に要望するとともに、危険箇所について勉強会を行っていく。								
備考										

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】結びつきやネットワークの強化

【政策分野】公共交通

【施策名】道路網の整備促進

取組事項		宮川架橋の建設促進							
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
協定の内容	取組内容	○			○	○			
	中心市の役割	連携市町と連携し、相互の地域関係住民の意見を調整し、推進に必要な取組を行う。							
	連携市町の役割	中心市と連携し、相互の地域関係住民の意見調整に協力し、推進に必要な取組を行う。							
現状と課題		宮川には橋梁の本数が少なく、南伊勢大橋と度会橋とは約7.2km離れており、その間に橋はない。このため、通勤時間帯には、度会橋で慢性的に渋滞が発生している。また、県道伊勢南島線は、度会町と伊勢市内で冠水し自然災害に対しても脆弱な道路ネットワークとなっている。伊勢度会地域の「命の道」を確保するため、南伊勢大橋と度会橋とのほぼ中間点に新たな橋を建設することを目的として、平成21年に宮川架橋建設推進協議会を設立した。							
事業の概要		宮川架橋の早期実現を図るため、必要な資料の収集や分析を行い、要望活動を行う。							
期待される効果		相互の連携・交流をより一層推進でき、地域住民の安全・安心な暮らしが守られる。							
事業費（千円）		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度			
		50	10	10	10	10			
実績費（千円）		1							
実施スケジュール	具体的な内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度			
	要望活動							→	
取組の実績	成果指標（単位）		R5	R6	R7	R8	R9	R10	進捗状況
	要望活動（回） 【算出方法】要望活動実施回数	目標値		1	1	1	1	1	A:目標値達成の見込み
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	1	1	0				
		時点	R5年度	R6年度	R7年9月末				
		目標値							
		時点							
		実績値							
		時点							
現況及び今後の方向性		平常時の交通渋滞解消に寄与するだけでなく、大規模災害時における伊勢度会地域の「命の道」として、救助、復旧、復興を可能とする新たなアクセスルートが確保できるよう要望していく。							
備考									

※事業費欄は宮川架橋建設推進協議会における事業予算額を記載しております。

【区分】結びつきやネットワークの強化

【政策分野】公共交通

【施策名】道路網の整備促進

取組事項		伊勢志摩連絡道路の建設促進								
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町	
協定の内容	取組内容	○	○	○				○		
	中心市の役割	生活圏の拡大と利便性の向上などを図り、相互を結ぶ伊勢志摩連絡道路の道路整備事業を推進する。								
	連携市町の役割	連携市町と連携し、相互の地域関係住民の意見を調整し、推進に必要な取組を行う。								
現状と課題		中心市と連携し、相互の地域関係住民の意見調整に協力し、推進に必要な取組を行う。								
事業の概要		一般国道167号並びに県道伊勢磯部線（伊勢道路）は、交通量の増加により慢性的に渋滞が発生しており、特に観光シーズンには、円滑な通行に支障が出ている。その解消のためには新しい道路が必要であるとして、平成5年に伊勢・志摩連絡道路建設促進同盟会を設立した。第二伊勢道路が平成25年9月に、鵜方磯部バイパスが平成29年12月に、磯部バイパスが令和7年3月に供用開始され、今後、未整備区間（志摩市磯部町五知～鳥羽市白木町）の早期完成が望まれる。								
期待される効果		同盟会の意見をとりまとめ、国及び三重県に要望活動を行う。								
事業費（千円）		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度				
		5,522	110	110	110	110				
実績費（千円）		5,150								
実施スケジュール	具体的な内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度				
	要望活動							→		
取組の実績	成果指標（単位）		R5	R6	R7	R8	R9	R10	進捗状況	
	要望活動（回） 【算出方法】要望活動実施回数	目標値	1	1	1	1	1		A:目標値達成の見込み	
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度		
		実績値	2	4	1					
		時点	R5年度	R6年度	R7年9月末					
		目標値								
		時点								
		実績値								
		時点								
現況及び今後の方向性		令和7年3月23日に磯部バイパス供用開始。 国土強靭化5か年加速化対策として、白木インターチェンジの渋滞解消、未完了区間の早期完成を要望していく。								
備考		令和6年度は磯部バイパス開通式の開催に伴い事業費が増加。								

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】結びつきやネットワークの強化

【政策分野】公共交通

【施策名】観光交通の渋滞緩和

取組事項		伊勢地域周辺における交通渋滞の緩和							
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
協定の内容	取組内容	伊勢地域周辺における交通渋滞の緩和を図るため、交通渋滞に関する調査研究、駐車場対策及びパーク&バスライドの実施など、交通渋滞の緩和を推進する。							
	中心市の役割	連携市町及び関係団体と連携し、交通渋滞を緩和するために必要な取組を行う。							
	連携市町の役割	中心市及び関係団体と連携し、伊勢地域の交通情報を共有するとともに、観光客への情報提供等を行う。							
現状と課題		公共交通機関の利用促進や交通渋滞の発生が予想される場合における交通規制、パーク&バスライド実施などにより、内宮周辺及び外宮周辺の交通渋滞の緩和や発生抑止はされているが、依然として解消に至っていないことから、来訪者のみならず、地域住民の生活や周辺市町への交通にも支障を来している。							
事業の概要		伊勢地域周辺における交通渋滞の緩和を図るため、交通渋滞に関する調査研究、駐車場対策及びパーク&バスライドの実施、交通情報の共有など、交通渋滞の緩和を推進する。							
期待される効果		観光交通の渋滞を緩和することで、伊勢地域周辺の交通環境の確保と訪問する観光客の快適性が向上する。							
事業費 (千円)		R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度			
		42,451	56,000	56,000	56,000	56,000			
実績費 (千円)		42,451							
実施スケジュール	具体的な内容	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度			
	交通渋滞対策の実施							→	
取組の実績	成果指標 (単位)		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況
	御木本道路1km以上の渋滞発生日数 (日)	目標値		12以下	12以下	12以下	12以下	12以下	A:目標値達成の見込み
	【算出方法】御木本道路における1km以上の年間渋滞発生日数	時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	7	7	0				
		時点	R5年度	R6年度	R7年9月末				
		目標値							
		時点							
		実績値							
		時点							
	現況及び今後の方向性	秋から年始の観光客が増加する時期を含まない実績であるが、例年同様、成果指標に設定した渋滞は発生していない。今後、秋から年始に向けてパーク&バスライドや臨時駐車場の開設などの交通渋滞対策を実施し、渋滞発生の抑制を図る。							
備考		御木本道路（伊勢西IC方面から）の宇治浦田町交差点から1km以上の渋滞発生日数を計測する。							

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】結びつきやネットワークの強化

【政策分野】地域の生産者、消費者等の連携による地産地消

【施策名】地産地消の推進及び地場産品のPR推進

取組事項		地産地消の推進及び地場産品のPR										
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町			
協定の内容	取組内容	農林水産物の消費拡大を図るため、地産地消及び農林水産物のPRを推進する。										
	中心市の役割	連携市町及び関係団体と連携し、地産地消及び農林水産物のPRを推進するために必要な取組を行う。										
	連携市町の役割	中心市及び関係団体と連携し、地産地消及び農林水産物のPRを推進するために必要な取組を行う。										
現状と課題		農林水産業の就業人口は高齢化等により減少傾向にある。圏域内では安心・安全な地元の食材供給を促進し、圏域外には積極的にPRすることで消費の拡大を図り、地域農林水産業を活性化させることが課題となっている。										
事業の概要		農林水産物の消費拡大を図るため、地産地消及び農林水産物のPRを推進する。										
期待される効果		圏域内農林水産物の消費拡大による就業者の経営安定、地域農林水産業の活性化を図る。										
実施スケジュール	事業費 (千円)	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度						
		4,020	0	0	0	0						
実績費 (千円)		4,020										
取組の実績	具体的な内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度						
取組の実績	地場産品PR活動の実施回数(回) 【算出方法】連携市町間で共同で実施した地場産品のPR活動の実施回数(連携した市町の延べ数)	目標値	15	19	19	23	23	B:目標値未達成の見込みだが、一定の進捗あり				
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度					
		実績値	10	11	0							
		時点	R5年度	R6年度	R7年9月末							
		目標値										
現況及び今後の方向性		例年開催していた共同イベントの終了などにより、目標指標は未達成の見込みであるが、下期には、11/9の「全国豊かな海づくり大会」の開催に合わせ、圏域市町で連携した地場産品のPRイベントの実施を予定しているほか、例年同様、圏域市町の地場産品をテーマにした学校給食により、地場産品をPR予定。 今後は連携市町の地場産品を一括りとしたPRや連携のしやすい2~3市町程度の連携事業の実施なども検討し、地産地消の推進および地場産品のPRを進める。										
備考		事業見直しにより定期的に開催されていた地場産品の販売イベントが令和6年度で終了となったことにより、令和7年度以降の事業費が皆減。										

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】結びつきやネットワークの強化

【政策分野】地域内外の住民との交流

【施策名】地域情報の共有化及び発信

取組事項		圏域内外への地域情報等の情報発信								
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町	
		○	○	○	○	○	○	○	○	
協定の内容	取組内容	圏域における地域情報を共有化し、圏域の内外へ相互自治体の情報発信媒体を活用し、情報発信を図る。								
	中心市の役割	伊勢市及び連携市町の地域における情報等を集約し、情報発信可能な事実の把握及び整理を行い、連携市町へ提供する。								
	連携市町の役割	情報発信媒体への掲載事項について中心市へ情報提供する。								
現状と課題		<p>各市町の広報紙やCATVでの合同記事掲載などに取り組んでおり、更なる圏域情報の共有・情報発信を行って圏域の一体感を醸成していく必要がある。</p> <p>また、人口減少は圏域全体の課題であることから、移住の促進を図るために、「伊勢志摩」の知名度を生かし、令和4年度から連携市町合同で移住セミナーの開催や参加をしているところである。移住を検討される方の琴線に触れるような情報発信をするべく、継続して連携していく必要がある。</p>								
事業の概要		<p>各市町からの地域情報を共有し、各市町のホームページやCATVで相互に情報を発信するほか、広報紙やCATVで合同記事を企画・掲載し、圏域での一体感のある情報発信を行う。</p> <p>また、連携市町合同での移住セミナー参加を継続するとともに、伊勢志摩の知名度を生かしながら連携して魅力ある情報を発信する。</p>								
期待される効果		圏域住民の活発な交流の促進が図られるとともに、地域振興や観光振興、圏域住民の郷土愛や圏域の一体感の醸成に繋がる。伊勢志摩の知名度を生かしながら連携して圏域全体の魅力や住みやすさ等をPRすることで、圏域への移住・定住の促進に繋がる。								
事業費 (千円)		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度				
		1,657	1,784	1,784	1,784	1,784				
実績費 (千円)		1,224								
実施スケジュール	具体的な内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度				
	情報集約・情報発信								→	
	移住イベント等PRの連携								→	
取組の実績	成果指標 (単位)		R5	R6	R7	R8	R9	R10	進捗状況	
	圏域内外への地域情報等の情報発信 (回)	目標値		25	25	25	25	25	A:目標値達成の見込み	
	【算出方法】地域情報等の合同発信回数等	時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度		
		実績値	24	32	12					
	移住イベント等PRの連携回数 (回)	目標値		2	2	2	2	2	A:目標値達成の見込み	
	【算出方法】三重県主催等の移住イベントへの合同参加回数	時点	R5年度	R6年度	R7年度9月末					
		実績値	1	2	1					
		時点	R5年度	R6年度	R7年度9月末					
現況及び今後の方向性		圏域住民の活発な交流の促進を目的に、連携市町間で地域情報を共有し情報発信を行った。2月には広報紙での8市町合同記事の掲載を企画しており、地域によって市民の目線や関心も異なるため、掲載内容等について意見交換を行なながら記事作成を進めている。また、合同で移住PRイベントへの出展を行い、移住を検討する方へ伊勢志摩の知名度と各市町の強みを活かした情報発信を行った。 引き続き、各市町の強みを組み合わせ、伊勢志摩エリアの魅力としてPRすることで、圏域への移住・定住の促進に繋げていく。								
備考										

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】結びつきやネットワークの強化

【政策分野】地域内外の住民との交流

【施策名】出会い・結婚への支援

取組事項		出会い・結婚に関する情報提供等									
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町		
		○	○	○	○	○	○	○	○		
協定の内容	取組内容	出会い・結婚の希望をかなえるため、情報提供、相談への対応、セミナー開催など、出会い・結婚に関する支援を行う。									
	中心市の役割	連携市町と連携し、出会い・結婚への支援に必要な取組を行う。									
	連携市町の役割	中心市と連携し、出会い・結婚への支援に必要な取組を行う。									
現状と課題		人口減少が進む中、少子化対策が求められている。少子化の要因の一つに晩婚化・非婚化が挙げられる。結婚していない理由として「出会いがない」「理想的な相手に出会えていない」ことがアンケート調査等の結果として出ている。今後、地域の活性化のためには、結婚を望む人が結婚でき、安心して子育てができる社会づくりが必要である。									
事業の概要		「いせ出会い支援センター」を拠点として、結婚に向けた相談、出会いの機会の創出や情報提供を行う。また、従業員の出会い・結婚を支援する企業のネットワーク「いせむすび」についても登録企業に情報提供を行い、従業員の出会いの機会に繋げていく。									
期待される効果		圏域全体を対象として出会いの機会を多く提供できるなど、より広範囲での出会いが期待できる。									
事業費（千円）		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度					
		16,704	15,454	15,454	15,454	15,454					
実績費（千円）		15,838									
実施スケジュール	具体的な内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度					
	出会い・結婚に関する相談対応								→		
	出会いの機会の創出								→		
取組の実績	成果指標（単位）	R5	R6	R7	R8	R9	R10	進捗状況			
	センターの利用件数（件） 【算出方法】センターへの来所、電話、メールによる利用件数	目標値	3,300	3,300	3,300	3,300	3,300	A:目標値達成の見込み			
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度				
		実績値	3,099	3,060	1,515						
	出会いのイベント開催数（回） 【算出方法】センターが開催する出会いイベント数	目標値	3	3	3	3	3	A:目標値達成の見込み			
		時点	R5年度	R6年度	R7年度9月末						
		実績値	3	3	1						
		時点	R5年度	R6年度	R7年度9月末						
取組の実績	婚活イベント情報提供件数（件） 【算出方法】従業員の出会い・結婚を支援する企業ネットワーク「いせむすび」に情報提供するイベント数	目標値	70	70	70	70	70	B:目標値未達成の見込みだが、一定の進捗あり			
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度				
		実績値	57	56	18						
		時点	R5年度	R6年度	R7年度9月末						
現況及び今後の方向性		<ul style="list-style-type: none"> <li>・いせ出会い支援センターの利用件数は、前年度上半期実績を下回ってはいるがほぼ予定通りであり、相談や出会いの機会の創出に繋げられている。</li> <li>・出会いイベント開催については、予定通り実施できており、イベントについても下期においてあと2回の開催を予定している。</li> <li>・婚活イベント情報提供件数については、民間事業者のイベントは少なくなっている傾向があるが、県や市町が実施するイベントは下期においても開催が予定されているため、引き続き、それぞれの取組の情報収集を行いながら、発信に努めていきたい。</li> <li>・三重県においても、出会い・結婚に係る取組を進めていることから、重複する取組内容や実施方法の整理を行い、連携して出会い支援を進めていく。</li> </ul>									
備考											

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】結びつきやネットワークの強化

【政策分野】その他

【施策名】図書館サービスの充実

取組事項		図書館サービスの更なる充実に向けた仕組みの構築									
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町		
協定の内容	取組内容	図書館サービスの充実を図るため、公共図書館が連携し、利用者の利便性向上に向けた新たなサービスの仕組みを構築する。									
	中心市の役割	連携市町と連携し、新たなサービスの仕組みを検討及び構築する。									
	連携市町の役割	中心市と連携し、新たなサービスの仕組みの構築に係る協議及び検討を行い、構築に向けて協力をを行う。									
現状と課題		令和2年6月1日をもって圏域内のすべての公共図書館において、圏域内の住民であれば利用者登録ができる仕組みが構築されている。新型コロナウィルス感染症の影響や電子書籍の登場など社会情勢の変化により、利用者が図書館で本を借りる冊数が減少している。今後、利用者の利便性向上に向け、新たな仕組みづくりを検討していく必要がある。									
事業の概要		構築した仕組み（圏域内の住民であれば、利用者登録を行えば本を借りることができる）について、より一層の周知を図る。 また、一部の市町で導入が始まっている電子図書館について、圏域全体でサービスを展開できないか、検討を行う。									
期待される効果		公共図書館の連携により、圏域住民の利用環境が向上するとともに、運営の効率化が図られる。									
実施スケジュール	事業費（千円）	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度					
		0	0	0	0	0					
実績費（千円）	実績費（千円）	0									
取組の実績	具体的な内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度					
	サービス内容の周知						→				
	新たな仕組みづくりの検討						→				
成果指標（単位）		R5	R6	R7	R8	R9	R10	進捗状況			
取組の実績	圏域住民への蔵書の貸出冊数（冊） 【算出方法】連携市町の公共図書館における圏域住民（自市町を除く）への貸出冊数の合計	目標値	105,000	107,000	109,000	111,000	113,000	A:目標値達成の見込み			
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度				
		実績値	102,631	100,165	54,364						
		時点	R5年度	R6年度	R7年9月末						
現況及び今後の方針		自市町を除く圏域住民への貸出冊数は、前年の同時期に比べて約4,200冊の増となっており、各市町図書館での案内やホームページでの周知により、認知度が高まっている。その内訳としては、例年同様、伊勢・小俣図書館から他市町への貸出が全体の約8割を占めている。今後も利用者のニーズに応えられるよう、一層の周知に努めていく。 また、新たなサービスの構築に向けて、圏域全体での電子図書館の展開について検討を進めており、県全域での実施の可能性については、三重県の動きを注視していく。									
備考		大紀町は公共図書館なし									

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】結びつきやネットワークの強化

【政策分野】その他

【施策名】宮川流域の保全・活用

取組事項		宮川流域の環境保全・情報発信									
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町		
協定の内容	取組内容	宮川流域の環境保全及び魅力を伝えるための情報発信等を行う。									
	中心市の役割	流域市町である連携市町と連携し、宮川流域の保全・活用に必要な取組を行う。									
	連携市町の役割	流域市町である中心市と連携し、宮川流域の保全・活用に必要な取組を行う。									
現状と課題		伊勢志摩定住自立圏内に流れる一級河川の宮川は、国土交通省が実施する「全国一級河川の水質現況」において、「水質が最も良好な河川」に選出されるほど全国有数の清流であり、流域は豊かな自然や歴史・伝統、特色ある文化に恵まれた地域である。このすばらしい宮川流域を住民、事業者、行政が協力して次世代に引き継いでいくことが求められている。									
事業の概要		県及び1市6町（圏域外含む）で組織される宮川流域ルネッサンス協議会に参画する市町において、宮川流域の環境保全及びその魅力を伝えるための情報発信等に連携して取り組む。									
期待される効果		住民の宮川流域への関心が高まり、環境問題への意識啓発や、魅力ある流域づくりに繋がることが期待される。									
事業費（千円）		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度					
		30,290	43,383	43,383	43,383	43,383					
実績費（千円）		23,033									
実施スケジュール	具体的な内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度					
	宮川の保全・活用のための事業実施										
取組の実績	成果指標（単位）	R5	R6	R7	R8	R9	R10	進捗状況			
	宮川流域の環境保全のための清掃活動実施回数（回） 【算出方法】連携市町における清掃活動実施回数の合計	目標値	2	2	2	2	2	B:目標値未達成の見込みだが、一定の進捗あり			
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度				
		実績値	2	2	0						
		時点	R5年度	R6年度	R7年9月末						
	宮川を活用したイベントへの来場者数（人） 【算出方法】連携市町におけるイベントへの来場者数の合計	目標値	42,000	42,000	42,000	42,000	42,000	A:目標値達成の見込み			
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度				
		実績値	42,030	41,600	53,100						
		時点	R5年度	R6年度	R7年9月末						
	宮川をフィールドとした校外学習実施回数（回） 【算出方法】連携市町における校外学習実施回数の合計	目標値	55	55	55	55	55	A:目標値達成の見込み			
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度				
		実績値	54	53	51						
		時点	R5年度	R6年度	R7年9月末						
現況及び今後の方向性		流域市町および三重県と連携し、宮川流域への関心を高めるため、パンフレットを活用した情報発信を行うとともに、各市町においてイベント開催等に取り組んだ。下期には清掃活動の実施も予定しており、引き続き、流域市町・三重県と連携しながら、情報発信・環境保全などに努める。									
備考		※下期に予定していた2回の清掃活動のうち1回は、雨天により中止。									

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】結びつきやネットワークの強化

【政策分野】その他

【施策名】消費生活相談体制の強化

取組事項		消費生活センターの広域化							
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
協定の内容	取組内容	消費生活センターを維持運営し、消費者トラブルの早期解決・未然防止を図る。							
	中心市の役割	伊勢市消費生活センターを運営し、消費者からの相談対応を行うとともに、連携市町と連携し、消費生活に係る啓発・情報発信を行う。							
	連携市町の役割	運営に必要な経費を負担するとともに、中心市と連携し、消費生活に係る啓発・情報発信を行う。							
現状と課題		消費者安全法では、各市町村に消費生活に係る相談対応のため、消費生活相談員の配置を求めており、各市町が単独で体制を整備することは難しい状況であることから、令和4年4月1日から広域連携による消費生活相談体制を確保した。消費者から寄せられる相談内容は年々、高度化・複雑化しており、これに対応し消費者の安全・安心を確保するためには、相談員の専門性を高めるなど相談体制の強化が必要である。また、消費者被害の未然防止の観点から、連携市町在住の消費者に対し、効果的な消費者教育・啓発を連携して行っていく必要がある。							
事業の概要		伊勢市消費生活センターを広域の相談窓口として維持・運営し、連携市町に在住する消費者からの相談対応や、消費生活に係る啓発・情報発信を行い、消費者トラブルの早期解決・未然防止を図る。							
期待される効果		連携市町に在住する消費者の消費生活に関する知識や意識の向上、消費者トラブルの早期発見・解決、未然防止に繋がる。							
事業費 (千円)		R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度			
		13,498	16,045	16,045	16,045	16,045			
実績費 (千円)		12,794							
実施スケジュール	具体的な内容	R 6年度	R 7年度	R 8年度	R 9年度	R 10年度			
	消費生活センターの維持・運営						→		
取組の実績	成果指標 (単位)		R 5	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	進捗状況
	消費生活にかかる相談対応件数 (件)	目標値		1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	A:目標値達成の見込み
	【算出方法】消費生活センターにおける相談対応件数	時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	
		実績値	1,145	1,289	704				
	消費生活にかかる啓発回数 (回)	目標値		152	154	156	158	160	A:目標値達成の見込み
	【算出方法】連携市町における消費生活出前講座・イベント出展回数、広報紙・HP等での情報発信回数の合計	時点	R5年度	R6年度	R7年9月末				
		実績値	176	177	104				
		時点	R5年度	R6年度	R7年9月末				
現況及び今後の方向性		連携市町の住民からの消費生活に関する相談を受け付け、トラブルの早期解決に向けた対応を行うとともに、年々複雑・高度化する相談に対応し消費者の安全・安心を確保するため、相談員の専門性を高めるなど相談体制の強化を図っている。今後も引き続き、消費者被害の未然に防止するため、連携市町が連携・協力して、連携市町住民に対し広報紙やホームページによる情報発信やチラシの配布、出前講座の実施等により積極的な消費者教育・啓発を行う。							
備考									

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】結びつきやネットワークの強化

【政策分野】その他

【施策名】インクルーシブスポーツ環境の充実

取組事項		インクルーシブスポーツの普及啓発									
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町		
協定の内容	取組内容	共生社会の実現に向け、インクルーシブスポーツの推進を図る。									
	中心市の役割	連携市町と連携し、インクルーシブスポーツのイベント、講習会、研修会等を開催し、インクルーシブスポーツの普及啓発を図る。									
	連携市町の役割	中心市と連携し、インクルーシブスポーツの普及啓発を図る。									
現状と課題		伊勢市パラスポーツ協会などの関係団体と連携し、イベント等を開催するなど、インクルーシブスポーツの普及啓発に努めているが、圏域住民の認知度はまだ低い状況にあることから、関係団体との連携を強化し、様々な視点から、更なる普及啓発に取り組んでいく必要がある。									
事業の概要		インクルーシブスポーツの普及啓発を進めるため、イベント、講習会、研修会等を開催する。 なお、開催にあたっては、伊勢市パラスポーツ協会や伊勢市障害者団体連合会、大学等とも連携し実施する。									
期待される効果		市町が連携することで、圏域住民にインクルーシブスポーツの効果的な普及啓発を図ることができる。また、学生の参画により、次世代育成の効果が期待できる。									
事業費 (千円)		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度					
		1,250	2,219	2,219	2,219	2,219					
実績費 (千円)		752									
実施スケジュール	具体的な内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度					
	インクルーシブスポーツイベントの実施								→		
	インクルーシブスポーツ講演会・研修会等の実施								→		
取組の実績	成果指標 (単位)	R5	R6	R7	R8	R9	R10	進捗状況			
	インクルーシブスポーツイベントの連携実施回数 (回)	目標値	1	1	2	2	2	A:目標値達成の見込み			
	【算出方法】圏域内で連携して実施されたインクルーシブスポーツイベントの回数	時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度				
	実績値	0	1	1							
	インクルーシブスポーツ講演会・研修会等の連携実施回数 (回)	時点	R5年度	R6年度	R7年9月末			A:目標値達成の見込み			
	【算出方法】圏域内で連携して実施されたインクルーシブスポーツ講演会・研修会等の回数	目標値	0	1	1	1	1				
		時点	R5年度	R6年度	R7年9月末						
現況及び今後の方向性		【イベント】圏域内の住民を対象として6月8日(日)にボッチャ交流大会を開催し、運営スタッフには圏域内市町の職員及びスポーツ推進委員も参加した。また、10月5日(日)にはいせスポーツフェスティバル2025として、圏域内の住民を対象としたインクルーシブスポーツ体験を実施予定。 【講習会等】圏域内である南勢志摩地域のスポーツ推進委員を対象として、8月24日(日)に南勢志摩スポーツ推進委員協議会指導者研修会(ボッチャ)を開催し、指導者の育成と連携強化に取り組んだ。 今後も圏域内市町及び伊勢市パラスポーツ協会やスポーツ推進委員等の関係団体と連携して広域的なイベントや講演会・研修会を開催することで、インクルーシブスポーツの一層の普及と圏域内住民の交流の促進、関係団体や圏域内市町との連携強化、指導者の育成に取り組んでいく。									
備考		インクルーシブスポーツ・・・障がいの有無や年齢、性別、国籍等を問わず、誰もが同じ空間で楽しむことのできるスポーツのこと(例:ボッチャ等)									

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】圏域マネジメント能力の強化

【政策分野】人材育成

【施策名】圏域市町職員・教職員の人材育成

取組事項		職員研修の合同開催									
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町		
協定の内容	取組内容	圏域における職員の能力及び資質向上を図るため、合同で研修を実施する。									
	中心市の役割	圏域で実施することが効果的な職員向けの研修を企画、実施する。									
	連携市町の役割	中心市が実施する職員向けの研修に参加するとともに、研修の運営に協力する。									
現状と課題		圏域住民への行政サービスの向上のために、地域を牽引する人材の育成が必要である。各市町それぞれにおいて研修計画を策定し実施することが基本となるが、研修によっては各市町でそれぞれ実施するには対象人数など費用対効果の関係で実施できない研修もある。									
事業の概要		各市町単体では実施できない研修を、連携市町職員が参加可能な合同研修として実施することで、連携市町職員の研修機会の充実・研修事業の効率化を図る。									
期待される効果		職員の能力と資質の向上及び研修を合同で実施することによる効率化、市町間における職員の連携強化に繋がる。									
事業費（千円）		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度					
		180	140	140	140	140					
実績費（千円）		9									
実施スケジュール	具体的な内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度					
	合同研修の実施								→		
取組の実績	成果指標（単位）	R5	R6	R7	R8	R9	R10	進捗状況			
	合同研修の開催回数（回） 【算出方法】連携市町の職員が参加可能な研修の開催回数	目標値	30	30	30	30	30	B:目標値未達成の見込みだが、一定の進捗あり			
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度				
		実績値	27	29	21						
		時点	R5年度	R6年度	R7年9月末						
	合同研修への参加者数（人） 【算出方法】連携市町からの参加職員数	目標値	35	35	35	35	35	A:目標値達成の見込み			
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度				
現況及び今後の方向性		実績値	73	38	44						
		時点	R5年度	R6年度	R7年9月末						
	今年度は一部研修メニューの見直しをしたため、開催回数が目標未達の見込みである。来年度以降は連携市町職員の研修機会の充実のため、一層のオンライン研修の活用などで参加可能な研修を増やしていく。一方、参加者数は既に目標値を達成しており、連携市町のニーズにあつた合同研修を実施できていると捉えている。										
	今後も、受講者アンケートなどから各市町が参加しやすい時期、内容等を検討した上で、継続して合同研修を実施し、職員の能力と資質の向上及び市町間の連携強化に努めていく。										
備考											

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】圏域マネジメント能力の強化

【政策分野】人材育成

【施策名】圏域市町職員・教職員の人材育成

取組事項		教職員研修講座の実施							
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町
協定の内容	取組内容	圏域における教職員の能力及び資質向上を図るため、合同で研修を実施する。							
	中心市の役割	圏域で実施することが効果的な教職員向けの研修を企画、実施する。							
	連携市町の役割	中心市が実施する教職員向けの研修に参加するとともに、研修の運営に協力する。							
現状と課題		伊勢市教育研究所が開催する研修講座には、以前から連携市町の教職員も参加している。今後は、働き方改革（総勤務時間の縮減）の観点から、講座数を増やしていくことは難しいと考えられるため、実施方法を工夫しながらテーマ別、ステージ別に魅力ある研修講座を開催する必要がある。							
事業の概要		教職員等を対象とした研修講座等を開催し、教職員の資質向上をもって連携市町の教育力向上を図る。							
期待される効果		教職員の資質向上を図るとともに、教職員間の連携強化が期待できる。市町が連携することで、研修講座の効率的・効果的な運営が期待できる。							
事業費（千円）		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度			
		823	716	716	716	716			
実績費（千円）		633							
実施スケジュール	具体的な内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度			
	教職員向け研修講座の実施								→
取組の実績	成果指標（単位）	R5	R6	R7	R8	R9	R10	進捗状況	
	受講者の満足度（%）	目標値	100	100	100	100	100	B:目標値未達成の見込みだが、一定の進捗あり	
	【算出方法】（「満足」+「概ね満足」）／全回答者数（受講者アンケート）	時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度		
		実績値	99.5	99.6	99.2				
	連携市町からの受講者数の割合（%）	時点	R5年度	R6年度	R7年9月末			B:目標値未達成の見込みだが、一定の進捗あり	
	【算出方法】連携市町からの受講者数／全受講者数（連携市町からも参加可能な講座のみ）	目標値	16	17	18	19	20		
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度		
		実績値	12	12	14				
		時点	R5年度	R6年度	R7年9月末				
現況及び今後の方向性		連携市町の教職員がより参加しやすくなるよう、オンライン講座も開催するなど、実施方法を工夫しながら研修会を開催し、教職員の資質向上を図った。今後も研修内容や実施方法を工夫しながら、教職員のニーズに合ったより魅力のある講座企画を進める。また、座学だけでなく、体験的に学べる講座の開催についても検討し、圏域全体の教職員の資質向上を図る。							
備考		7/30に開催した「授業づくり（算数）」の講座については、津波警報の発令を受け、開始10分に中止となったことから、「受講者の満足度」の指標には含まれていません。							

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。

【区分】圏域マネジメント能力の強化

【政策分野】人材育成

【施策名】圏域内人材の育成

取組事項		青少年健全育成の合同研修会の開催								
連携市町		伊勢市	鳥羽市	志摩市	玉城町	度会町	大紀町	南伊勢町	明和町	
協定の内容	取組内容	圏域における青少年の健全育成に関わる方を対象とした、情報交換会及び研修会等を開催する。								
	中心市の役割	連携市町と連携し、青少年健全育成に関する情報を共有するとともに、情報交換会及び研修会等の開催情報等を提供する。								
	連携市町の役割	中心市と連携し、青少年健全育成に関する情報を共有する。								
現状と課題		次代を担う青少年の育成は、社会全体で一体的に取り組むべき課題であることから、圏域内で活動する青少年健全育成団体が集い、情報交換や研修会等を通じて、SNSの普及による青少年を取り巻く問題の潜在化や県内少年の検挙・補導件数の増加などの課題を共有することが大切である。								
事業の概要		三重県青少年育成市町民会議南勢志摩支部（明和町を除く定住自立圏市町）により、青少年の健全育成に関わる方を対象とした支部研修会を中心市及び連携市町の持ち回りで開催する。支部研修会の開催市町は、それぞれの特性に合わせた企画を行い、他の市町は連携して周知を行う。								
期待される効果		連携市町が連携して参加することで、青少年健全育成に関する情報を共有し、圏域全体の青少年に対する健全育成を図る。								
事業費（千円）		R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度				
		0	445	50	50	50				
実績費（千円）		0								
実施スケジュール	具体的な内容	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度				
	合同研修会の実施								→	
取組の実績	成果指標（単位）	R5	R6	R7	R8	R9	R10	進捗状況		
	合同研修会の開催回数（回） 【算出方法】連携市町が持回りで毎年開催する合同研修会の回数	目標値	1	1	1	1	1	A:目標値達成の見込み		
		時点	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度			
		実績値	1	1	0					
		時点	R5年度	R6年度	R7年9月末					
		目標値								
		時点								
		実績値								
		時点								
	現況及び今後の方向性	青少年を取り巻く環境は、他者とのつながりの希薄化や家族と過ごす時間の減少等により、対面でコミュニケーションを取る機会が少なくなっている。加えて、SNSという顔の見えないコミュニケーションツールの急速な普及により人間関係に影響を及ぼしていることから、今年度は連携市町の合同研修会として「闇バイト」や「オンラインカジノ」などの被害から身を守るための対応方法についての講演会を実施予定。今後も青少年を取り巻く環境や社会情勢などを踏まえつつ、研修の内容を検討し、連携市町で合同研修会等を開催する。								
備考										

※事業費欄は連携市町の当初予算額または予算見込額の合計を記載しています。